

2024年 4月 6日

第78回全日本体操種目別選手権・団体選手権出場枠(男子)について

(公財)日本体操協会
男子体操競技強化本部
大会プロモーション委員会

第78回全日本体操種目別選手権

■参加資格

- ① 中学3年生以上
 - ② シード枠(全日本種目別予選免除者)4名
 - ③ ②を除く、種目別ランキング上位者24名
 - ④ 映像審査上位者12名(跳馬のみ36名)
- ※ ②の選手は跳馬を除く5種目に適用し、跳馬はパリオリンピックファイナリストのみ対象とする
- ※ ②は決勝のみに出場する。
- ※ 予選には③24名と④12名、計36名が出場する。③に辞退者が出た場合は④の次点者から繰り上げる。第78回全日本体操種目別選手権映像審査後から第78回全日本体操種目別選手権の参加申し込み締め切り期日までに辞退者が出た場合、順次映像審査の上位者に出場資格を与える。
- ※ 決勝には②4名と、予選上位者4名、計8名が出場する。②に辞退者が出た場合は、順次予選上位者の次点者から繰り上げる。

【シード枠(全日本種目別予選免除者)】

以下に該当する者4名をシード枠とする。

A:パリオリンピック種目別ファイナリスト

B:種目別ランキング上位者(跳馬を除く)

下記の(1)～(6)の競技会における各選手のベストスコアで種目別ランキングを作成し、その上位者からAを含めた4名を選出する。

- (1)全日本個人総合予選
- (2)全日本個人総合決勝
- (3)NHK杯1日目
- (4)NHK杯2日目
- (5)パリオリンピック(予選・団体決勝・個人総合決勝)
- (6)各連盟競技会(全日本ジュニア1部 / 全日本インカレ1部・2部 / 全日本シニア)

- ※ Bにおけるタイブレークは、Dスコアが高い方を上位とする。Dスコアが同点の場合、Eスコアを比較し、高い方を上位とする。さらに同点の場合、上記(1)～(6)の競技会の中で当該種目に

おける2番目に高い得点を比較し、その上位者にシード枠を与える。さらに同点の場合は、同様に3番目以降の得点を比較する。出場した競技会数が異なり得点を比較できない場合、より多くの競技会に出場した選手を上位にする。タイブレークが不可能な場合、決勝は9名以上で行う。(予選からの決勝進出4枠は減らさない)

【全日本種目別予選出場者】

以下に該当する者36名を全日本種目別予選の出場者とする。

C: 種目別ランキング上位者(Bより下位)

上記(1)～(6)の競技会における各選手のベストスコアで種目別ランキングを作成し、AおよびBを除く上位24名を選出する。

D: 映像審査上位者

A～Cを除き、下記基準 D スコア満たすことのできる選手が映像審査に参加することができ、このうち上位12名を選出する。

- ※ Cにおけるタイブレークは上記B同様に行う。ランキング24番目が同点でタイブレーク不可能な場合、予選の出場枠を増やす。これにより、D(映像審査)での出場枠は変動する。(予選出場36枠は変動しない)

- ※ 予選における跳馬は2跳越とし、その平均点により順位を決定する。(映像審査も同様に、2跳越とする)尚、跳馬における採点可能基準は、Dスコア平均 4.8 以上とする。

■タイムライン

各連盟大会の終了後(9/15以降)、参加資格②～④に関する種目別ランキングを決定

↓

9月末までに出場有資格者を発表(意思確認を含む)

↓

10月3週目頃に映像審査を実施

(映像は2024年4月1日以降に撮影された演技。)

↓

11月初旬までに出場者を決定(申込および抽選、スタートリストを公表する)

第78回全日本体操団体選手権

■参加チーム数 14チーム

1. 全日本インカレ及び全日本シニアの得点を並べた上位11チーム
(チーム得点を6-6-4で再計算し選出する)
2. インターハイ最上位
3. 全日本ジュニア最上位
4. ジュニア選抜

以上